

5年生『丹波篠山市学力状況調査』の結果について

丹波篠山市学力・生活習慣状況調査(全国学力・学習状況調査)は、各教育委員会や各学校が児童生徒の学力や学習状況を把握し、学習指導や生活指導の改善等に役立てることを目的として実施されています。本調査について分析結果をまとめました。本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえつつ、保護者・地域の皆様の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら一層の指導上の工夫改善に努めます。学校の教育活動に対して支援していただければありがたいと思います。

〈国語〉

○成果……漢字を読む・書く、話し合いの内容を読み取る

「漢字を読む・書く」の中でも、「第4学年で配当されている漢字を正しく書いている」の正答率は91%(目標値82%)でした。また、「話し合いの内容を聞き取る」の正答率は、77%(目標値65%)でした。話し合いの内容を聞き取り、話し手が伝えたいことの内容を捉えていることがわかります。

●課題……条件に合うように、理由や事例などを考えて説明する文を書く力

目標値40%(本校26%)と差が大きかったのは、「情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら条件に合うように説明する文を書く。」という項目で、条件作文のような文を書く力に課題があることがわかりました。

課題克服に向けて取り組んでいきたいこと

いくつかの情報と情報との関係について読み取り、理由や条件を踏まえて書く活動に課題が見受けられるため、今後は、資料と資料とを決められた時間内に比較しながら「読む活動」や、条件の提示に合うように理由などを説明する力を伸ばせるような「書く活動」を取り入れた朝のスキルタイム、授業に取り組んでいきます。

○成果……小数の仕組み、角の大きさ

「角の大きさ」では、 180° より大きい角の大きさを求める問題の正答率は78%(目標値62%)でした。また、「小数」では、小数のしくみを理解しているかどうか問われる問題の正答率が、目標値(94%)と同程度の95%でした。

●課題……概数に対応する数の範囲の理解、わり算などの基礎的な計算力、基準量と比較量

国語科に比べ、目標値と同程度かそれを下回ることが多かったのが算数科です。四捨五入して、概数にしたときの「〇〇以上〇〇以下」と「〇〇以上〇〇未満」の違いやわり算の筆算を使って正解を求める計算力、基準量と比較量から求めた割合を比較して考える問題に課題があることがわかりました。

課題克服に向けて取り組んでいきたいこと

「〇〇は□□の何倍にあたりますか?」という「割合」を求める4年生の学習をさらに発展させた「割合」の単元の学習が5年生でもあります。今後も、関係図を描いて基準量と比較量をはっきりとさせて割合の問題を解くことや考えた根拠や理由を「式」「言葉」を使って説明する力の向上を目指し、深い学びとなる対話活動を意識した授業を心がけていきます。

〈算数〉

【保護者の方へのお願い】

市調査の結果から、算数科においては基礎的な計算力に課題があることもわかりました。高学年での学習内容をより深く理解するためにも、下学年の既習内容や基礎計算(かけ算・わり算の筆算)などを自学等でしっかり復習することが大切です。ご家庭でも取り組むようにお声かけとお力添えをよろしくお願いいたします。